

● 重大性の段階に応じたいじめの類型（例） ～「いじめ」の定義に基づく確実な認知に向けて～

以下の類型は、あくまでも例であり、いじめの認知に当たっては、被害の子供が「心身の苦痛を感じている」かどうかを鑑み、個別に判断する。

個々のいじめへの対応に当たっては、その行為の重大性（行為が与えた影響、故意性、加害の子供の人数、継続性等）を総合的に考慮して、適切な対応を行う。

○：いじめの行為 ◆：加害の子供への対応例

行為の故意性、意図性		加害の子供の集団性		一人で	集団で
1 好意で行った言動 ～親切のつもりが…～		ゼロ		<p>◆ 発言の苦手な子供に、「〇〇さんも意見を言いなよ。」と強く促した。</p> <p>◆ 親切さを十分に評価した上で、発言が苦手な子の気持ちについて、一緒に考える。</p>	<p>□ 継続性がない行為</p> <p>□ 偶発的な行為</p> <p>□ 相手を特定していない行為</p> <p>□ 謝罪等によりすぐに解決した行為</p>
2 意図せずに行った言動 ～悪気はなかったのに…～				<p>○ リレーでバトンを落とした子供に「何やってんだ!」と怒鳴った。</p> <p>◆ 発達特性なども踏まえ、何気ない言葉が相手を傷付けることもあることを丁寧に諭す。</p>	<p>などでも、「心身の苦痛を感じさせた」行為は、全て「いじめ」に該当します。</p>
3 衝動的に行った言動 ～つい、かっとなつて…～	暴力を伴わない			<p>○ うっかりぶつかった子供に「死ねよ。」と言い、にらんだ。</p> <p>◆ 絶対に使ってはいけない言葉について指導する。</p>	
	暴力を伴う			<p>○ うっかりぶつかった子供に対して、その場で殴りかかった。 ※ 事例によっては犯罪に該当</p> <p>◆ 暴力は絶対に許されないことを指導するとともに、かっとなつたときの対処方法を身に付けさせる。</p>	
4 故意で行った言動 ～あの子がむかつく～	暴力を伴わない	法令上のいじめ	社会通念上のいじめ	<p>① 運動の苦手な子供に、「あなたのせいで負けたの分かってるの!」と問い詰めた。</p> <p>◆ 発言の背景となっている思いを聞き取った上で、他人の失敗を責めることの問題について理解させる。</p>	
				<p>② 運動で失敗するたびに、「へばい!」「足引っ張るな!」などはやし立てた。</p> <p>◆ 絶対に許されない行為であることを理解させ、完全に行われなくなるまで、監督を徹底する。</p>	
	<p>◆ 学校サポートチームと連携して、別室指導などを行い、二度と行わせないようにする。</p> <p>③ 体育館を離して、被害の子供が探している様子を笑って見ている。</p> <p>◆ 警察や児童相談所と連携して、厳しい指導を行い、直ちに行為をやめさせる。</p> <p>④ 試合で負けたお詫びに、メンバー全員に1,000円ずつ払うよう強要した。</p> <p>⑤ お金を持って来ないことを理由に、殴ったり、蹴ったりした。</p> <p>重大な犯罪</p>				
				◆ 警察と連携して、法令に基づく措置を含め、厳格な指導を行い、反省が確認されるまで、被害の子供と接触させない。	
継続性		単発的		継続的	

※ 上記の類型は、加害の子供の行為によるもので、被害の子供の「心身の苦痛」の軽重によるものではない。

※ どこからが犯罪に該当するかは、事例ごとに異なる。 ※ 「暴力」とは、言葉以外の有形力の行使全般を指す。